

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 28 年 3 月 11 日 第 5 巻 (第 11 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. バトン寄稿 — Part 8
2. 不登校問題についてのシンポジウムに参加して
3. 活動報告
4. 他団体紹介
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」 発売中！！

詳細は“4. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1. バトン寄稿 — Part 8

当協会の東日本大震災での支援活動は、5年目を迎えました。それぞれの時期に当協会の会員であった方々が責任者や担当として、現地にて協力員と共に支援のバトンを紡いでくれました。

今回は2013年度から継続して「引きこもりの子を持つ親の会」を指導・支援している西田が報告してくれました。

日本医療社会福祉協会 災害支援チーム
サポートチームアドバイザー
西田 知佳子



グループワークの魅力について

2013年2月、当時の現地責任者、久保木さんからの依頼で引きこもりの子どもを持つ家族のグループワーク（以下グループと記述）を4月から始めることにした。その前年に私は病院を退職し時間があったこと、いくつかのグループを10数年行ってきたので、石巻で私ができることはグループを開催し、続けることだと思った。私はグループが好きであり、多くのSWにグループの楽しさを知ってほしいと思っていた。

久保木さんとは1年、その翌年から大阪出身の畑中さんと2年「引きこもりの家族と当事者」のグループを月2回続けてきた。東京とは違い車の運転ができないと市内の移動が難しく、また多くの家族が働いており平日の日中に親がグループに参加することは簡単ではなかった。またお茶っこの的な会合は気楽に参加できるが、保健センターで、第二・

第四水曜日午後1時から2時までという枠組みは引きこもりの子どもを持つ親御さんには敷居が高かったかもしれない。1年目は何人か出入りがあったが、2年目から新しいメンバーの参加はぐんと減り3年目には最初から参加している一組の親子と、祖母と孫というメンバーに固定された。最後の年になる予定だったので新しくメンバーをリクルートすることはせず、少しずつ動き出している若者2人と彼らを見守る母と祖母を支えることに専念した。ところがあと2年協会としての活動が続くことになって、いまグループをどうするか畑中さんや石巻で引きこもりの若者を支援している機関と相談している最中である。

この3年でグループがどういう効果を上げたかと聞かれると、辛いところだが、引き

こもりのグループを初めて間もなく、久保木さんや石巻医療圏 健康・生活復興協議会の方が相談して、アルコール依存症の治療を終えて自宅に戻った独居の中年男性のグループ「男のあそぼう会」を始めた。この会は作業グループで巻きずしやお菓子を作ったり、ハイキングや釣りに出かけるなど皆で楽しむことを目的としている。始めて1年半後には一緒にやっていた石巻医療圏 健康・生活復興協議会が石巻から撤退し、どうしても男性の力が必要なそのグループに、大阪や仙台から男性SWが応援に来てくれた。今では石

巻の病院のSWも有休を使って参加してくれている。私は残念ながら一度も「男のあそぼう会」には参加したことがないのだが、引きこもりのグループが基本にあって、この「男のあそぼう会」があるという風に考えている。当事者同士だけでは十分に発揮できない各自の持ち味が、SWが上手に介入することで十二分にお互いを刺激し支えあう力になる。参加メンバーの方がみなさん、月一回のこのグループを楽しみにしていられると聞くと大変嬉しい。グループは始めたら終わりにできなくなる魔力を持っている。



2. 不登校問題についてのシンポジウムに参加して



石巻圏域における不登校問題の現状と課題

～ 関係者の連携強化に向けて ～

2016/2/12 開催



日本医療社会福祉協会 災害支援チーム
石巻現地責任者 畑中 良子

2月12日（金）の午後、石巻専修大学にて「石巻圏域における不登校問題の現状と課題」と題したシンポジウムが開かれました。これは石巻専修大学不登校問題検討会と当協会も参加している石巻地域不登校・ひきこ

もり支援ネットワークが主催で開催したものです。

震災後、多くの支援者が石巻市に入りました。石巻地域不登校・ひきこもり支援ネットワークとは石巻地域で不登校やひきこもり



問題に取り組んでいるNPO等の団体間連携であり、現在のネットワークのメンバーは石巻若者サポートステーション・石巻NOTE・フォルケ・TEDIC・東部保健福祉事務所・宮城県ひきこもり地域支援センターと当協会です。当ネットワークでは

- ①官民の枠を超えて顔の見える関係づくり
- ②お互いの活動内容を知り、連携・ネットワーク作り
- ③支援者のスキルアップや課題の共有

を目的に 2013 年から活動を継続しています。これまでの活動は石巻圏域の養護教諭の先生方や小・中学校の生徒指導の先生方を対象にひきこもりへの理解と支援について講義をし、各団体の活動紹介を行い、行政の保健師さんや児童相談所及び不登校問題の相談窓口となっている方々と民間の団体の情報交換会、不登校・ひきこもり支援機関の支援マップの作成などを行っていました。

これまで地道にネットワークづくりや活動の紹介を行ってきた中で、石巻専修大学で不登校問題に取り組んでおられる木村先生

と照井先生に出逢い、今回のシンポジウムの開催に繋がりました。参加者については制限を設けず、教育関係、行政、地域住民の方にも呼びかけました。参加者は 70 名を超えました。

シンポジストは中学校教員、教育委員会、NPO団体、精神科医と色々な視点から不登校問題について語られました。中学校の先生からは現状と取り組み、教育委員会からは不登校に関するデータや不登校問題についての取り組みなどが報告されました。不登校問題はチームで関わらないと解決が難しい事、複数の機関が介入する場合にはコーディネーター役が必要となる事、民間事業者は活動内容についてのフィードバックを学校側へ行き、情報を共有する事など、共通理解が図れたのではないかと思います。

教育分野と医療・福祉分野の交流はそれぞれの考え方や課題に対する取り組み方の違いで容易なことではないかもしれませんが、しかし、このような機会を持つ事でお互いの感じている問題点を共有し、協働で取り組める関係性を築けるきっかけにしていきたいと思っています。

3. 活動報告

医療法人^{えびすかみ} 東毛敬愛病院（群馬県）

阪下 潤一

2015/1/25~1/27



今回、3度目の災害支援活動でしたが、道路の整備が進み、復興住宅が建ち並び、復興

が進んでいる事を実感すると同時にどのような支援活動へ変化しているのか考えさせら

れました。

まず初日に現地事務所に伺い、オリエンテーションの中で支援活動の大きな変化を感じました。以前の支援活動に参加させて頂いた時には、訪問による問題点の抽出、支援の必要性の確認が中心でしたが、今回は石巻市より自立生活支援事業の委託が中心になっていました。時間経過の中では活動内容が進んでいて当然だったのですが、一歩進んだ活動内容になっていました。

行政より信頼を得た委託事業であり、仮設住宅入居者の今後の支援は困難を極めるケ

ースが多く、エリアミーティング・ケース会議と日々忙しく時間経過をたどっていました。

初日の仮設住宅訪問では行政の支援に依存している方への支援、2日目の復興支援住宅訪問では、様々な書類手続きの支援、3日目の仮設住宅訪問では子育て家庭での障がい者就学についての支援と、支援活動の内容もより複雑化していると感じました。

日本医療社会福祉協会の5年間の実績が認められた活動だと感じ、今後の支援活動継続の必要性を再認識した3日間でした。



石巻市より委託された自立生活支援事業には、協力員の支援活動参加が不可欠です。

現地支援活動員の方々のお力で、支援活動は明確化されていて、協力員の活動参加がしやすい環境になっています。以前に参加された方は、復興の進捗状況を感じる事ができます。また、今まで支援活動に参加した事の無い方も、支援活動を通じて復興へのエネルギーを感じる事が出来ますので、是非とも一度石巻の地へ足を踏み入れてください。

4. 他団体紹介

みらいサポート石巻

みらいサポート石巻は、2011年3月11日の東日本大震災発生後に発足した

「NPO・NGO 連絡会」の事務局機能を担うことからスタートし、2011年5月13日

事 務 所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程

5月10日（火） 19：00～21：00 於協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SW



との協働の記録を『バトンⅡ』に、

2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

ボタンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

ボタンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

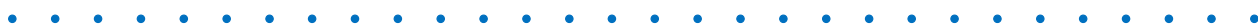


6. 災害支援ニュース発行のお知らせ



次回発行予定 3月下旬予定

7. あとがき



災害支援チーム事務局から

編集担当 富永

この災害支援ニュースが発行されるころには、東日本大震災から5年を迎えているのですね。早いと思うのか、それともまだ5年なのかと色々と想いを馳せます。1年ぶりの石巻、復興公営住宅や高台移転など、新しい環境へ移られる方々もいらっしゃるようになりました。しかし、新しいまちでの自治を作り上げていくことは容易ではないと思います。当協会や行政、社協のCSCなどのサポートが、今までのかかわりにまして必要になってくるのだと思います。地域福祉の視点を、改めて勉強しようと思った今日この頃です。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

平成 28 年 3 月 11 日 第 5 卷 (第 11 号)

作成 日本医療社会福祉協会

災害支援チーム事務局